

令和8年度

事業計画

- 1 介護老人福祉施設 「桜テラス平岡」・「青葉のまち」・「サポーターティ・もみじ台」
- 2 通所介護 「桜テラス平岡」・「青葉のまち」
- 3 短期入所生活介護 「桜テラス平岡」・「青葉のまち」
- 4 訪問介護 「サポーターティ・もみじ台」
- 5 居宅介護支援 「桜テラス平岡」・「青葉のまち」・「サポーターティ・もみじ台」
- 6 札幌市清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）
- 7 札幌市清田区第1・第2介護予防支援事業所（札幌市委託）
- 8 札幌シニア福祉機構 研修事業部（自主事業）



社会福祉法人

札幌シニア福祉機構

【社会福祉法人札幌シニア福祉機構 理念】

「私たちは、人の幸せを望みます。」

～We Wish a person Well (3Wビジョン)～

【私たちは、常に利用者の方にベクトルを向けて、福祉のプロフェッショナルとして高い倫理観と責任感を堅持し、新たな発想で新たな「幸せ」創りに貢献します。】

～ 目 次 ～

基本方針	・・・ P3～4
【事業方針】 【事業目標】	
I 法人経営・施設運営	・・・ P5～9
① 経営管理部 ② 事業推進部 ③ 介護人材対策 ※ 公益事業『札幌シニア福祉機構 研修事業部』	
II 各施設事業計画値	・・・ P10～11
III 職員配置計画	・・・ P12
IV サービス方針	・・・ P13～16
【桜テラス平岡】 ① 相談支援課 ② 生活支援課 【青葉のまち】 ① 相談支援課 ② 生活支援課 【サポーター・もみじ台】 ① 相談支援課 ② 生活支援課 【地域包括支援センター（札幌市委託）】 ① 清田区第1地域包括支援センター（清田区第1介護予防支援事業所） ② 清田区第2地域包括支援センター（清田区第2介護予防支援事業所）	
V 各事業部門計画	・・・ P17～29
VI KPI（重要業績評価指標）	・・・ P30～32

令和8年度 事業計画

基本方針

【事業方針】

令和8年度は、第七次中期経営ビジョン3ヵ年計画（令和8～10年度）の初年度となります。重点課題に設定した①職員待遇の改良と向上②組織における生産性の向上③利用率安定と適正収支差額について、全職員が実行する上で視点に位置付けた、「Ⅰやるから自身が生まれる(成長)」・「Ⅱ行動が組織を変える(変化)」・「Ⅲ諦めない心が未来を創る(創造)」のもと、諸課題に対してスピード感を持って進めていきます。

法人経営では、桜テラス平岡移転後通期での初年度となり、資金収支の安定化を図るためにも、KPI(重要業績評価指標)で設定した事業目標値を達成できるよう、日常の進捗管理と対策の迅速化に努めます。

サービス・業務管理については、生産性向上のため ICT 活用のさらなる強化と効率の検証をはじめ、生成 AI の業務導入に向けた準備を加速させます。

職員処遇・職場環境は、賃金制度を全面的に改定し、令和9年度施行に向けて協議・設計するとともに、職員育成の強化策として職員研修要綱を見直します。

I 法人経営

- ① 建替事業による借入金返済開始後の資金繰り管理のため、事業収入の安定化を図ります。また、緑愛園跡地売却により資金力を強化します。
- ② 介護報酬臨時改定による食費基準費用額の増額対応及び物価高騰に伴う経費支出対策として、保険外利用料を見直します。
- ③ 生成 AI の業務活用に伴う環境整備・導入指針・職員研修などの準備を進めます。
- ④ 施設入居者・在宅利用者の確保・拡大のため、頼れる身寄りがない高齢者の受入れ準備・SNS 等を活用した PR を継続します。

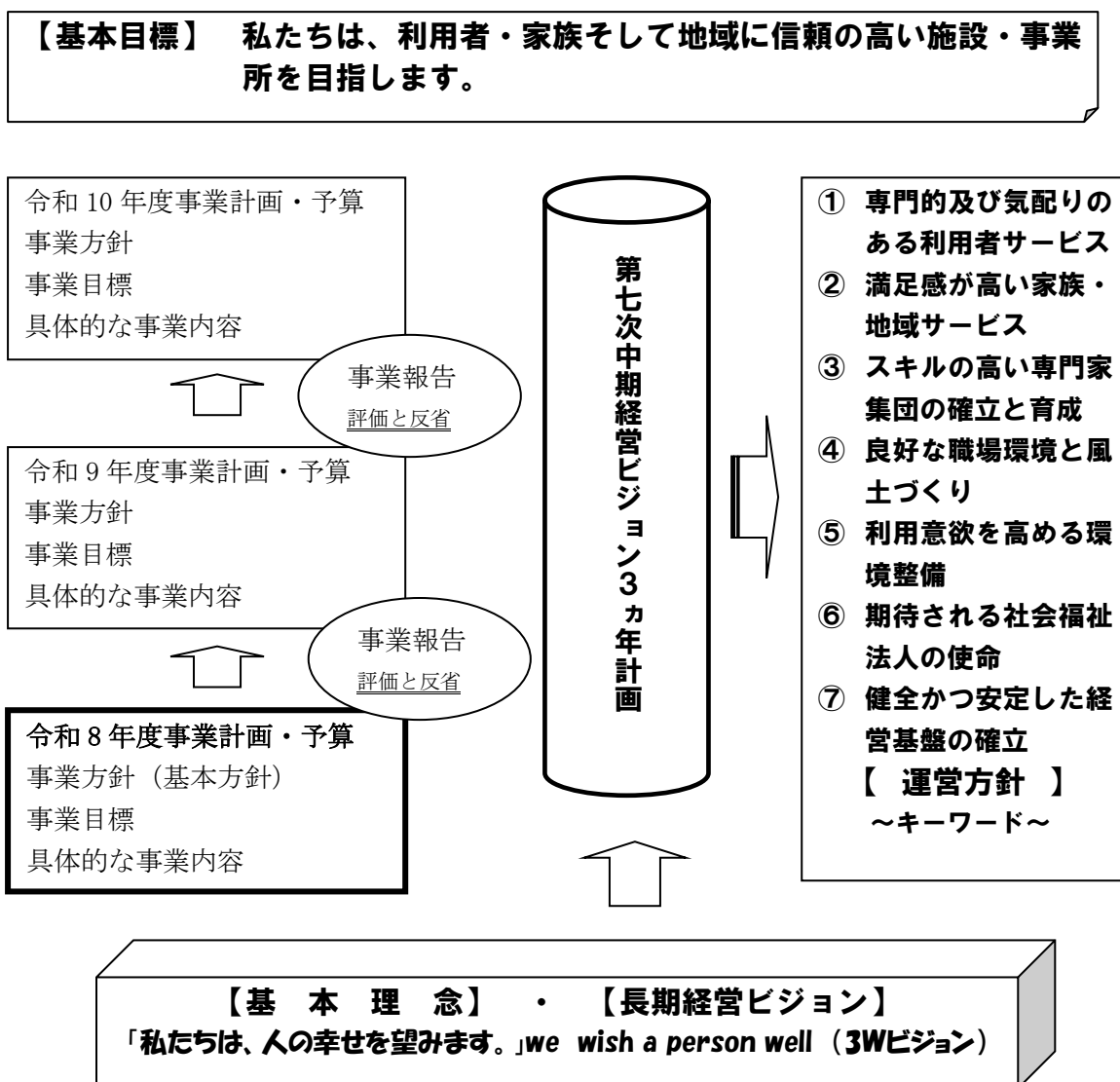
II サービス

- ① 介護ロボット機器及び ICT 導入による生産性向上や業務省力化が実感できるよう、効果検証に努めます。
- ② 在宅利用者を対象としたサービス・アセスメント調査を行い、サービスの質及び法令遵守の状況を点検します。
- ③ 地域内他法人や関連機関・法人内他事業所と重層的な連携を図り、地域ニーズへの貢献及び法人ブランド力を向上させます。
- ④ 現場に配布している業務・サービス関連マニュアルの活用実態を整理し、大幅な見直しを図ります。

Ⅲ 職員労働環境

- ① 介護報酬臨時改定に伴い、職員諸手当の対応及び新賃金制度の導入を準備します。また、管理職の給与改善及び年俸評価制を導入し、責任と対価を明確にします。
- ② 職員研修制度を見直し、一般職及び役職者のスキル向上に努めます。また、自己啓発の推進に向けて資格取得の支援策を講じます。
- ③ 外国人介護人材の採用を検討し、各種環境の整備や検討チームを立ち上げます。(法人内モデル施設から先行)
- ④ 令和9年度に向けて、新たな働き方(副業・在宅ワーク・週休3日制など)を検討します。

【第七次中期経営ビジョン3ヵ年計画と令和8年度事業計画（確認）】



I 法人経営・施設運営

1. 経営管理部

- ① 第七次中期経営計画の着実な推進として、策定したアクションプランに基づき、初年度の総括を実施し、各施策の進捗管理と検証を徹底することで、計画の確実な実行と成果の可視化を図ります。
- ② 安定的な財務基盤の確立として、特別養護老人ホーム建替事業後の財務環境を踏まえ、月次決算による差異分析を強化し、資金収支の適正管理を徹底します。あわせて、金融機関との連携強化を通じて安定的な資金調達体制の構築を図ります。
- ③ 特養跡地活用の推進として、適切かつ迅速な売却手続きを進め、財務体質の強化につなげます。
- ④ 賃金制度の抜本的見直しとして、正職員の手当制度を整理し、基本給水準の向上を視野に入れた賃金制度の全面見直しに取り組みます。また、非常勤職員についても同一労働同一賃金の観点から制度を再検証し、令和9年度からの新賃金制度運用開始を目指します。
- ⑤ 処遇改善加算の適切な活用として、介護職員等処遇改善加算を有効に活用し、持続的な処遇改善を推進します。
- ⑥ 勤怠管理システムの課題解消として、新システムへの移行を段階的に進めます。令和8年度に一部施設で試験導入を行い、令和9年度の全施設導入を目指します。
- ⑦ 採用・定着強化として、離職率の改善と人材定着を目的に、採用選考方法および採用基準の見直しを進めます。
- ⑧ 人事管理体制の高度化として、人事データの一元管理および業務効率化を図るため、人事管理システム導入について検討を進めます。
- ⑨ 多様な働き方の推進として、ダブルワーク、在宅勤務、週休3日制などの導入可能性を検討し、柔軟で持続可能な就労環境の整備を目指します。
- ⑩ 福利厚生制度の充実として、現行制度の整理および周知を行い、職員が安心して働き続けられる環境づくりを推進します。

2. 事業推進部

- ① 施設入居者の待機者対策として、頼れる身寄りがない高齢者の受け入れ体制（契約締結・金銭管理・医療行為）を検討し申し込み者の増加を図ります。
- ② 職員研修要綱の改訂及びキャリアパスフレームの更新を行うとともに、効率的かつ効果的な研修方法を協議します。これにより、職員が安定的に知識を習得でき、自己学習に取り組みやすい研修体制の構築を目指します。
- ③ AI の活用と導入に向け、各事業所内における活用可能な業務場面を整理し、記録作成や事務作業等の具体的な活用方法を明文化します。併せて、活用時の留意点やAI との役割分担を整理した活用指針を作成します。
- ④ 各施設のマニュアルが効果的に活用できるよう、マニュアルのリストアップ及びデータ収集を行い、内容の精査と法人内統一マニュアルの検討を行います。
- ⑤ 各施設において生産性向上の取り組みを推進するため、業務改善や効率化に資する実践状況を共有するとともに、取り組みを促進するための方策について検討します。
- ⑥ 内部監査を継続し、適切な業務管理を推進します。
- ⑦ 各施設に導入された介護ロボット機器について、保有状況及び活用状況の可視化を行い、施設間での情報共有を通じて、機器の特性を活かした方法を検討し、効果的な活用に繋がります。
- ⑧ 介護ソフトの使用状況を把握し、介護職員の記録業務等の効率化を促進するとともに、職員が幅広く効果を実感できるように取り組みます。
- ⑨ 研修事業部の現任研修の在り方を検討するため、研修時間帯や内容、実施場所等について、複数の方法を試行的に実施します。
- ⑩ サービスの質向上を図るため、在宅サービス利用者を対象とした定期的なアンケート調査の実施方法について検討します。

3. 介護人材対策

- ① 新入職員に対する「入職初期の重点フォロー体制」を見直すとともに、採用時のミスマッチ軽減に向けた選考プロセスの改善を図ります。
- ② 介護人材対策委員会を継続運営し、ワークライフバランスを重視したシフト等を検討します。
- ③ 求職者に「働くイメージ」を伝えるため、採用サイトおよびコンテンツの充実を図ります。

重点項目	中項目	細目
人員の確保策	事業連携による奨学金 PR 強化	北海道医療大学生に対する奨学金制度の PR 強化を図る
	採用サイト、SNS による法人 PR の強化	求人票、採用サイトおよび掲載コンテンツを見直す
職員の定着化	介護人材対策委員会の継続	入職初期重点フォロー体制を検討する
	退職者の離職要因分析と対策の実行	採用時の選考プロセスの見直し・検討を行う
その他	法人ブランドおよび介護職の魅力の可視化	法人内における介護実践の強みや特徴を整理・言語化し、内外へ発信する

令和8年度 人材対策計画

	中項目	細目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人員 確 の 確 保 策	事業連携による奨 学金 PR 強化	北海道医療大学生に対する 奨学金制度のPR強化を図る	提案							提案	訪問			提案
	採用サイト、SNS による法人PRの強 化	求人票、採用サイトおよび掲 載コンテンツを見直す	実施	→										評価
職員 の 定 着 化	介護人材対策委員 会の継続	入職初期重点フォロー体制 を検討する		検討	→	提案	実施	→			評価	実施	→	
		シフトの検討を行う						検討	→		提案			
	退職者の離職要因 分析と対策の実行	採用時の選考プロセスの見 直し・検討を行う				検討	→	提案						
そ の 他	法人ブランドおよ び介護職の魅力の 可視化	法人内における介護実践の 強みや特徴を整理・言語化 し、内外へ発信する	検討	調査		提案								

【公益事業・札幌シニア福祉機構 研修事業部】

	セグメント	概 略	令和8年度の計画値・取組み
研修 研究 事業	①	介護職員初任者研修 介護職員初任者を養成 ～北海道指定養成機関～	2、3月（札幌学院大学） 計画15名の修了者
	②	認知症介護実践研修 （実践者研修） 認知症介護実践職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	8、10、11月開催（年3回） 計画75名の修了者
	③	認知症介護実践研修 （実践リーダー研修） 認知症介護実践職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	7、9月開催（年2回） 計画60名の修了者
	④	現任研修 認知症介護実践者研修 フォローアップ等	6月、8月、9月（年3回）
地域 連携 事業	①	介護職業理解の促進 未経験や介護資格保有者を対象に職 場見学会とガイダンスを開催	各種学校の在学生・一般受講者 向けに開催（5月・10月）

※ その他、公益事業として可能性のある事業の検討を随時行う。

※ 認知症介護実践研修(実践者研修)1回目は、サポータィ・もみじ台の地域交流スペースで開催する。

Ⅱ 各施設事業計画値

【桜テラス平岡】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和7年度見込
1	介護老人福祉施設	82+3 (85)	97.2%	1日 82.6名 平均介護度 3.85	78.6名
2	短期入所生活介護	12-3 (9)	98.9%	1日 8.9名 平均介護度 3.44	10.1名
入所計		94	96.4%	1日 90.6名	88.7名
3	通所介護 (一般)	45		1日 28.0名	27.8名
	(総合)			1月 30.0名	31.3名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 214.6件 月請求 45件	280件
	支援計			計 259.6件	

【青葉のまち】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和7年度見込
1	介護老人福祉施設	70	94.3%	1日 66.0名 平均介護度 3.96	64.3名
2	短期入所生活介護	10	93.0%	1日 9.3名 平均介護度 2.8	9.0名
入所計		80	94.1%	1日 75.3名	73.3名
3	通所介護 (一般)	45		1日 26.5名	26.8名
	〃 (総合)			1月 18.0名	18.1名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 175.0件 月請求 55.0件	207件
	支援計			計 230.0件	

【サポーター・もみじ台】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和7年度見込
1	介護老人福祉施設	80	95.1%	1日 76.0名 平均介護度 3.99	74.1名
2	訪問介護	280		月 938時間	927時間
3	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 167.5件 月請求 70件	219件
	支援計			計 237.5件	

【地域包括】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和7年度見込	
1	第1介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合(再)	月請求 月請求 月請求 月請求 月請求	114.1件 168.4件 76.9件 194件 56.7件	600件
	予防計			月請求	610件	
2	第2介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合(再)	月請求 月請求 月請求 月請求 月請求	179.3件 269.5件 125.4件 337.1件 68.6件	954件
	予防計			月請求	980件	

※令和7年度見込みについては、12月末データを基に作成。

Ⅲ 職員配置計画

職種	桜テラス平岡			第1 包括	第2 包括	青葉のまち			サポ・ティ・もみじ台		
	施設	通所	居宅			施設	通所	居宅	施設	訪問	居宅
施設長	1					1			1		
相談支援課長	1					1			1		
生活支援課長	1					1			1		
センター長(課長)				1(社)	1(主)						
医務主任	1					1			1		
介護主任	3	1				3	1		3	1	
相談支援主任	1					1			1		
居宅支援主任			1					1			1
包括支援主任				1(保)	1(社)						
看護師	3	+2				3	+2		3		
機能訓練員	1					1			1		
保健師等				2	4						
主任ケアマネ				2	1						
社会福祉士等	1	2		3	5	1	2		1		
ケアマネ	1	5		3	3+2	1	4		1	4	
サ提供責任者											4
介護職員	20+11	6+3				20+19	5+2		27+13	+11	
日常生活サポーター	+8					+5			+21		
管理栄養士	1					1			1+1		
栄養士	1					1					
調理員	+11					+9					
事務職員	1	+1		+1	+1	1	+1		1	+1	
設備員	+1					1			+1		
カフェ・喫茶						+2			+1		
守衛						+2			+3		
計	37+31	9+5	6+1	12+1	15+3	38+37	8+4	5+1	43+40	5+11	5+1
合計	52+37			27+4		51+42			53+52		

(+は契約A~D職員・嘱託職員・パート職員) ※介護職員・日常生活サポーターは、勤務時間数により人数変更が伴います。

職種	法人本部	備考
事業推進部長	1	
経営管理部長	1	
介護人材対策課長	1	
スタッフ	2+1	研修事業+事業推進+経営管理
計	5+1	

管理職	14
正職員	174
嘱託	1
契約・パート(夜勤専門含)	135
合計	324

IV サービス方針

● 桜テラス平岡 ●

【全体】

令和8年度は、移転後の「安定」から新施設ならではの「価値創造」へと踏み出す3か年計画の初年度として、「支援の在り方・職員意識・業務体制」の三本の柱として見直しに着手します。法人理念を単なるスローガンに留めず、職員一人ひとりの具体的な「判断基準」として行動化し、職員目線の「安全を優先した支援」から、利用者の尊厳と自己決定を尊重する「自立支援」への転換を目指します。また、ICT・AIを能動的に活用し、業務の効率化によって生み出された時間を利用者や職員間、そして地域との豊かな対話へと還元します。

（相談支援課）

- ① 「学習と交流」というテーマに基づき、地域住民や学生、隣接保育園が日常的に集える活用ルールを策定し、具体的な交流企画を試行します。
- ② 多様な福祉ニーズへの即応とセーフティネット機能の強化を図り、地域の最後の拠り所としての役割を果たします。
- ③ 入所相談や契約プロセスにデジタル技術を導入して事務負担を軽減し、相談員がより専門的な対人援助に注力できる環境を作るとともに、SNS等で施設の魅力を積極的に発信します。

（生活支援課）

- ① 看取りケアのあり方を見つめなおし、食事摂取量の数値だけに捉われず、利用者の生活歴や価値観を尊重した「利用者の満足」を基準とする質の高いケアを実践します。
- ② 主任・リーダー層が理念の体現者となり、「良い支援」を称賛し合う文化の醸成と対人援助のプロとして根拠に基づいた議論ができる強いチームを構築します。
- ③ テクノロジーの定着による「生産性向上」と「身体的負担軽減」の両立を目指します。

● 青葉のまち ●

【全体】

令和8年度は、将来的な介護人材の安定的な確保を見据え、外国人の活用を検討する「思考と変革」の一年とします。

施設部門で2年前から実施している生産性向上委員会の取り組み内容を施設全体に波及させ、職員の負担軽減と業務効率の向上を実現します。

職場環境においては、働きやすい職場づくりを目的として、大規模な改修も踏まえた暑さ対策の実施と福利厚生の実施を推進します。

（相談支援課）

- ① 施設の入退院状況を的確に把握・調整するとともに、ユニットの受け入れ体制を強化し、短期入所の空床型ベッドの効果的な運用に努めます。
- ② 定期的なボランティア確保に向けて、地域だけではなく、新たに大学生のボランティアサークルや近隣の中学校・高校への働きかけを行います。
- ③ 頼れる身寄りがない高齢者の受け入れを含めた柔軟な発想で新規利用者の獲得に努めます。

（生活支援課）

- ① 現在導入されている ICT 機器を有効活用し、記録業務の効率化とペーパーレス化を推進します。
- ② コロナ禍によって制限されていた余暇活動を再開・充実させ、入居者の QOL の向上につなげます。
- ③ 「この施設を選んで良かった」と思っただけのような職員の接遇・マナーの向上を図ります。

● サポーティ・もみじ台 ●

【全体】

令和 8 年度は第七次中期経営ビジョン 3 年計画の初年度として、業務効率と生産性の向上を高める 1 年としていきます。

施設部門では、厨房機能を活用した「調理のセントラル化」を推進し、オペレーションの効率化と適正な人員配置を検討します。また、全床への見守り機器導入により、入居者の安全確保と介護職員の身体的・精神的負担の軽減を両立させ、支援体制の強化につなげます。

訪問部門では、昨年度導入した ICT 機器の定着・活用をさらに促進します。事務作業等の効率化によって創出した時間を派遣時間に充当し、稼働率の着実な向上を図ります。

（相談支援課）

- ① 待機者確保に向け、頼れる身寄りがいない高齢者の受け入れ体制の整備と、医療ニーズのある方への対応範囲の拡大を進めます。
- ② 過去の広報実績を分析し、事業ごとの特性に応じた最適な PR 手法を展開することで、新規利用者を獲得します。
- ③ 多様な世代が参加できるボランティア体制を構築し、募集対象を拡大します。また、活動への貢献に報いる制度を導入し、継続的な意欲向上を支援します。
- ④ 地域内の他法人と連携し、イベントの共同企画・運営を通じて、地域社会における協力体制を強化します。

（生活支援課）

- ① ICT の活用および業務プロセスの見直しにより業務負担の軽減を進め、安定的かつ質の高いサービス提供体制を構築します。
- ② 食事業者変更に伴い、入居者の嗜好や栄養状態に応じた食事提供を強化し、満足度の向上を図ります。また、厨房機能を活用した調理業務のセントラル化に向け、段階的な準備と体制整備を進めます。
- ③ 訪問部門においては、ICT 機器の定着・活用を徹底し、事務作業の効率化により創出した時間を派遣業務へ振り向けることで、稼働率向上を図ります。
- ④ 職員のストレス緩和を目的として、現行業務の精査を行うとともに、福利厚生の実践に向けた環境整備を進めます。

●清田区第1・2地域包括支援センター●

【全体】

札幌市高齢者支援計画2024の基本目標『いくつになっても住み慣れた地域で希望と生きがいをもって自分らしく暮らし続けることができるまちづくり』の継続実現を目指し、清田区の地域包括ケアシステムの更なる深化・推進にむけた体制構築及び課題解決と調整を担う中核的機関として対応力の強化を図ります。

併せて、当法人が、清田区の2つの包括支援センターを受託している強みを内外に発揮します。

- ① 支援が必要な高齢者等(特に介護保険サービス未利用者)が孤立することなく早期に発見され支援に繋がるよう地域全体をサポートするとともに、対応力を向上し、包括機能の強化を図ります。
- ② 「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務における環境整備」を推進するため、清田区地域特性の把握と課題分析に基づき、関係機関等や地域住民とのネットワークを強化します。
- ③ 職員定着とサービスの質の向上のため業務の点検を継続し、ICT機器を活用した効率化及び削減を行い持続可能な体制づくりに取り組みます。
- ④ 地域包括支援センター受託法人として、法人内部連携の強みを最大限発揮できるよう取り組みます。

V 各事業部門計画

【 桜テラス平岡 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 看取り支援の体制強化	施設における看取りケアのあり方を見直し、生活支援との融合を改めて実践する	「本人の満足・納得」を基準とした生活支援一体型の看取りを推進する	施設部門 通所部門
	桜テラス平岡における「看取りケアガイドライン」の策定と職員が不安なく実践できる活用体制の構築	家族向けリーフレットを活用し、入居から看取りのプロセスを説明できる体制の標準化を目指す	施設部門
	セミターミナル支援の在り方を検討する	介護職員の技術差による支援品質のばらつきを是正し、明確な根拠に基づいた介護及び職員の精神的な負担を軽減する	施設部門
2. 認知症介護の再構	最新の認知症ケアに関する専門知識の獲得と能力の向上を図る	若年性認知症や精神疾患を伴うケース等、多様なニーズに対応するための最新知識を獲得する	施設部門 通所部門
	認知症に対する知識更新を続け、利用者の世代変化に対応すると共に、安心感を与える『非言語的ケア』の共通認識を確立する	入居者の重度化及び認知機能低下に合わせて、『非言語的ケア』により安心を提供できる専門技術を向上させる	全部門
	利用者が家族と共に楽しめる余暇支援を検討し提供する	個室環境や地域交流スペースを活用し、家族と入居者の時間を大切にできる行事企画や支援を試行し展開する	施設部門 通所部門
3. チームケア文化の定着	職員が互いに学びあい、支えあう職場風土を醸成する	主任・リーダー層が中心となり、法人理念を日常の支援行動に結びつけて説明する「理念共有ワーク」を実施する	施設部門 通所部門
	階層別の職員育成ニーズを視覚化し育成方針の策定と育成支援を実施する	自ら考え発言できる「理想の職員像」を明確にし、階層別の育成ニーズを視覚化する	全部門
	定期的にチーム間交流を行うことで職員が主体的にチーム目標へ貢献する姿勢を確立する	2フロア合同企画や各ワーキングチームを合同で実施し、高層階による連携不足や孤立感を解消する	施設部門 通所部門

[社会資源の発掘及び地域支援強化]

重点項目	計画内容		部門
1. 住民に開放された地域交流スペースの活用	「学習と交流」というテーマに沿った地域向け企画の検討と実施	新施設のキーワードである「学習と交流」に沿った企画を検討し、試験的に実施する	相談支援課
	フリースペースの活用ルールを構築し周知する	地域交流スペースの活用ルール（利用可能時間、予約方法、飲食の可否等）を明確にし、マニュアル化する	相談支援課
	地域交流企画と融合した施設送迎車両の隙間時間の活用方法を検討する	送迎車両が稼働していない「隙間時間」を地域住民の移動支援や交流企画への送迎に活用できる仕組みを検討する	全部門
2. 福祉教育の協同と実践	近隣の教育機関と多様な交流機会を検討し実践する	隣接する保育園や近隣校と連携し、多世代が交流できる機会を検討・実践する	全部門
	職業体験において仕事の楽しさを実感してもらえよう受け入れ体制を強化する	職業体験や実習教育において、学生が介護の仕事の魅力や専門性を実感できる指導体制を強化する	全部門
	福祉専門職による地域向け「防災共同学習交流会」の検討と実施	「福祉避難所」としての役割を地域住民に周知し、共に災害への備えを学ぶ交流会を検討する	相談支援課
3. 地域への施設機能の周知	地域住民の労働意欲に関する調査及び労働力活用方法の検討と提案	高齢者や主婦層など地域住民の労働意欲やニーズを調査する	相談支援課
	長期間休止していたボランティア受入れに関して体制の整備と受入れの再開	長期間休止していたボランティア受け入れについて、新施設的环境に合わせた体制を再整備する	相談支援課
	桜テラス平岡を地域住民が活用するため、サービス活用事例の周知検討と提供	地域住民が桜テラス平岡を身近に感じられるよう、サービスの提供や地域交流スペースの具体的な活用事例を周知する	相談支援課

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 支援体制の構築	新たな環境における職員の協力体制の再構築と実践	新施設環境におけるフロア及び専門職員間の連携体制の再構築と共同活動の実践	全部門
	効率的な働き方を考慮した新しい職種の可能性について検討と提案	専門職以外の役割を切り出し、地域住民のスポット就労等を含めた新しい職種の可能性を検討・提案する	全部門
	法人理念を「日々の行動」に変えるチームコンセプトの浸透	理念に沿った良い支援を可視化・称賛し合うことで、最適な支援を自律的に選択できる職員を育成する	全部門
2. 自立支援の在り方の検討	自立支援コンセプトの言語化と職員意識の統一	身体・精神・生活の三つの視点から「自立支援」を再定義し、職員間での共通言語化を図る	施設部門 通所部門
	施設設備及び環境を活用した支援体制の再構築	安全を優先しすぎて「行動の機会を奪う支援」を見直し、利用者が主体的に選択・決定できる環境を整える	施設部門 通所部門
	選ばれ続ける事業所としての継続的な見直しと改善	新築の従来型施設としてブランド化を図るため、自施設のサービスコンセプトを常に見つめ直す機会を確立する	全部門
3. 設備の活用	移転と同時に導入した機器について効果的な活用方法の確立と活用促進	導入機器に対し、活字化によるマニュアル以外に動画を活用したマニュアルを作成し支援時の標準道具として定着を図る	施設部門 通所部門
	施設入所と短期入所のベッドコントロールにおける柔軟な受け入れ体制の再構築	新施設で増床した個室環境を活かし、施設入所と短期入所のベッドコントロールをより柔軟に行える仕組みを再構築する	施設部門 短期部門
	業務効率と業務改善のための設備活用に関する提案と検証	AIによる勤務表作成などテクノロジーによる業務削減の成果を具体的に可視化する	全部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1. 職員の定着強化	主任職を中心とした職員自らが創る組織文化の醸成を目指す	主任や中堅職員が理念の体現者・伝達者となるべく、支援構想ミーティングや理念共有ワークを定期開催する	全部門
	「自ら考え行動する」理想の職員像の明確化と共有	自ら考え、言葉を発し、議論や判断ができる職員を理想像として定義し、共有する	全部門
	職員間の相互尊重によるハラスメント防止と接遇マナーの定着	職員間の相互尊重を重視し、対話や支援、業務の判断について常に「理由・根拠」を添えて対話する文化を醸成する	全部門
2. 利用者の拡大	身寄りなし高齢者の支援の拡充	社会的な支援が必要なケースの受け入れについて、課題の整理と改善方法を蓄積し地域の拠り所としての機能を強化する	施設部門 居宅部門
	若年性認知症ケアに対する知識の標準化と支援体制の土台作り	若年性認知症、精神障害など、幅広い支援が必要な利用者のために職員の学習機会を設け、多様な利用者支援ができる体制を整える	全部門
	施設申込者が安心して待機できるよう「事業所内・施設間連携」の基盤構築	居宅支援・在宅支援から施設入居までを一気通貫した支援提供にすることで、入居までの待機期間の安心を提供する	相談支援課

【 青葉のまち 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. ICT 活用	①記録時間の効率化	生成 AI 及びボイスファンとケアパレット等を活用した記録業務の効率化を図る	全部門
	① 施設内ペーパーレス化の実施	全事業の記録業務を一覧化し、ペーパーレスの可否について選定する	全部門
	② 移乗支援機器の評価と拡大	Hug や介護リフトの研修を実施し、現在使用していないユニット内での検証を行う	施設部門
2.生産性向上の推進	①3M による業務改善	3M「ムリ・ムラ・ムダ」の検証と改善手法を策定する	全部門
	②5S 活動の推進	5S 活動の意味を全職員が理解し、その実施方法を策定する	全部門
	③生産性向上委員会の効果的な運営	生産性向上委員会の検討事項を実施しつつ、施設内の生産性向上に関わる事項を委員会と連動して検討する	全部門
3.QOL 向上への取り組み	①充実した余暇活動の実施	季節ごとの全体行事の開催及び、ユニットごとに個別の余暇支援を協議する	施設部門
	②コロナの5類移行後の生活環境整備	感染対策の検証を行い、マニュアルを再整備する	全部門
	③個別機能訓練の充実	廃用性症候群の進行を予防するため個別機能訓練を体系化し継続的に実施する	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1.地域支援活動	①地域向け企画の継続的な実施	令和7年度に開催した地域向け企画を検証し、持続可能な企画を再策定する	相談支援課
	②近隣施設・事業所・関係機関との連携強化	地域の関係機関と顔の見える関係性作りを構築するため「あおぼつながりプロジェクト」(仮称)の検討を行う	相談支援課
2.ボランティア	①定期的ボランティアの確保	車いす清掃や歌の会などの定期的なボランティアを確保するためPRを強化する	相談支援課
	②学生ボランティアの検討	大学生のボランティアサークルや近隣の中学・高校への働きかけを強化する	相談支援課
3.防災活動	①防災教育の推進	地震や洪水、停電等を想定した災害時の対応について地域・職員向けにセミナー及び研修を開催する	全部門
	②災害を想定した必要備品の設置と点検	災害用備蓄品の見直しを図り、備品の点検と不足品の補充を行う	全部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1.接遇・マナー	①接遇・マナーの向上を目的とした研修と啓発活動の実施	定期的な研修の開催とポスター等の啓発により意識改善を図る	全部門
2.外国人材採用	①プロジェクトチームによる体制整備	法人本部と共同で、外国人受け入れのガイドラインを整備する	施設部門 法人本部
	②外国人受け入れ機関との連携	外国人受け入れ機関と連携し、導入にあたって必要な体制を整備する	施設部門
	③職場環境の整備	施設職員向けに「やさしい日本語とは」「外国文化」「伝達方法」等の研修を開催し受け入れ体制を整備する	施設部門
3.職場環境の改善	①夏場の暑さ対策の実施	遮光フィルム・エアコンの増設等のハード面の改善の他、職員・入居者に対し熱中症予防策等のソフト面の対策を実施する	全部門
	②五感を意識したサービス向上の取り組み	食事の見た目、ユニット内の「音・臭い」という五感に関わる課題について検討・改善する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1.職員の定着強化	①職場環境改善アンケートの実施と改善状況の見える化	日常的な改善要望事項について可視化することでモチベーションの向上を図る	全部門
	②衛生委員会と連携し、実態と申告の乖離がある時間外労働の削減	慢性的な時間外の出退勤に対し改善策を検討し、乖離残業を軽減する	全部門
	③施設独自の福利厚生への検討	夜勤職員が購入できるような無人売店の検討と全職員に恩恵がある福利厚生の方策を検討し実施する	全部門
2.利用者の拡大	①空床ベッドの活用拡大に向けた取り組み	効率的な空床ベッドの運用方法の検討及びショートユニット以外の受け入れ体制を整備する	施設部門
	②ICT 技術を活用した情報発信の促進	SNS の発信力を強化する他、運用の少ないデータ連携システムの活用を検証し、積極的に PR することで利用率の向上に繋げる	全部門
	③新規利用者の獲得	頼れる身寄りがない高齢者受入れの検討及び、生活保護受給者受入れのPR強化並びに、重介護高齢者の利用を検討する	施設部門 通所部門

【 サポーターティ・もみじ台 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 認知症ケアの推進	①認知症支援及び職員の資質向上を目的とした、各種認知症研修の継続的な受講促進を図る	認知症支援の質向上と職員の指導力強化を目的に、ユニットリーダー研修、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修へ計画的に職員を派遣する	施設部門
	②PEAP 指針の継続活用及び定点観測を通じ、高齢者が安心して過ごせる空間づくりを実践する	PEAP 指針に基づき、全職種で定点観察を実施する。観察結果を共有し、環境整備や関わり方の改善を具体的に進めることで、高齢者が安心して過ごせる空間づくりを継続する	施設部門
	③チームケアによる認知症支援体制の強化を図るため、実践力を高める仕組みを構築する	年間を通じて事例検討会を開催し、PDCA サイクルに基づく振り返りと改善を繰り返すことで、チーム全体の認知症ケア体制の強化を図る	施設部門
2. サービスの充実	①入居者及び家族、来館者等への接遇マナーの向上を図る	入居者・家族・来館者への対応力向上を目的に、職員アンケートおよび管理職による観察を実施する。結果を踏まえた研修を行い、日常業務での実践と定期的な評価と成果につなげる	施設部門
	②アドバンス・ケア・プランニングを継続的に実践し、入居者が安心して生活できる施設を構築する	ACP を計画的に実施し、定期的な評価と見直しを行う。入居者の意思を尊重した支援を継続し、安心して生活できる体制を強化する	施設部門
	③入居者及び家族による、施設運営の参画を強化する	家族が施設運営に関われる仕組みを整備する。来館時に居室やユニット清掃など、可能な範囲で協力いただく機会を設け、施設運営に対する家族参画を図る	施設部門
3. ICT 利活用の推進	①見守り支援機器増設により、入居者の安全な居住環境を構築する	見守り支援機器を増設し、夜間巡回および日常の見守り体制と併せて運用する。定期的に効果検証を行い、入居者の安全確保と職員の負担軽減を図る	施設部門
	②ケアパレットを導入し、在宅利用者への迅速なサービス提供体制を整備する	ケアパレット導入により、記録・情報共有を効率化し、支援時間の確保とサービス提供の迅速化を図る。訪問ミーティングで運用状況を確認し、継続的な改善を行う	訪問部門
	③介護ソフト及び通信機器等の ICT ツール活用を強化する	各種チェック表の管理・共有方法を見直し、段階的に介護ソフトへ移行する。また、情報共有の迅速化と業務の標準化を進める	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1. 地域との連携	①地域内の他法人と発足した団体における要綱の整備及び組織化を促進する	地域内他法人と発足した団体について、要綱の整備および役割分担の明確化を行い、組織基盤を強化する。連携体制を確立することで、継続的な地域活動を推進する	全部門
	②小中学校及び高校における福祉教育支援に向けた取り組みを継続する	次世代への福祉理解の促進と人材育成の土壌づくりにつなげるため、小中学校・高校を対象に出前講座や施設見学を企画し、福祉や介護に触れる機会を提供する	全部門
	③地域交流スペース(福祉避難場所)の新たな活用について検討する(クールシェルター等)	地域交流スペース(福祉避難場所)の活用方法を見直し、クールシェルター等としての活用を含め、地域ニーズに応じた運用を検討する	全部門
2. ボランティアの拡充	①ボランティアに対する支援制度を構築する	ボランティアの意欲向上と継続的な参加を促進するため、環境整備および支援制度の内容を検討し制度設計を行う	施設部門
3. 地域の活用	①地域内他法人と協働したイベントの開催(盆踊り、アイスキャンドル制作等)	盆踊りやアイスキャンドル制作など、地域内他法人と協働したイベントを企画・運営し、もみじ台北地区における持続可能な地域交流の場を創出する	全部門
	②地域交流スペースやカフェを活用したイベントを実施する(完全調理済食品の試食、熱中症対策等)	地域住民の健康意識向上と施設の周知につなげるため、地域交流スペースやカフェを活用し、完全調理済食品の試食会や熱中症対策講座等を開催する	全部門
	③幼稚園児及び小学生等を対象とした、長期休暇期間中のイベントを開催する	幼稚園児・小学生等を対象に長期休暇期間中のイベントを企画し、福祉に対する理解促進と地域における施設の認知度向上を図る	全部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 生産性の向上	①継続業務及び廃止業務の精査を行い、施設全体における業務改善項目を抽出する	現行業務を精査し、「継続業務」と「廃止・縮小可能業務」の見える化を行う。抽出した改善項目について優先順位を設定し、段階的に実践する	施設部門
	②生産性向上委員会を立ち上げ、加算の取得を図る	生産性向上委員会を設置し、定期的な開催を通じて業務分析と改善に取り組み、加算取得に必要な体制を整備する	施設部門
	③5S活動を継続し、さらに働きやすい職場環境づくりを推進する	5S活動の実施状況を毎月リーダー会議で確認し、改善点を明確化する。整理・整頓の徹底により、業務効率と安全性の向上を図る	施設部門
2. 食事提供方法の再検討	①ユニットにおける食事調理及び提供方法について検証する	食事業業者変更に伴い、調理工程および提供方法を再確認する。入居者満足度の向上と安全確保の観点から検証を行い、必要な改善を実践する	施設部門
3. 業務効率化の促進	①OJT機能強化に向けた育成力の向上	現行マニュアルを精査し、最新の支援方針・介護観に整合する内容へ改訂する。指導内容の標準化を図り、OJTの質向上につなげる	施設部門
	②全職種における超過勤務時間の把握を行い、削減に向けた対策を検討する	全職種の超過勤務時間を定期的に把握し、結果を各部署で共有する。要因分析を行い、業務分担の見直しや効率化策を実施する	全部門
	③AI機器等を活用し、業務効率化を推進する	AIボイスレコーダを活用し、議事録作成の自動化を進めることで、職員の心理的負担軽減と業務効率化を図り、直接ケアおよび支援時間の確保につなげる	全部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		事業区分
1. 介護職員の定着強化	①各種会議及び研修へのリモート参加を促進する	実践形式を伴わない研修や各種会議のリモート参加を奨励し、移動時間や拘束時間の削減を通じて、職員の負担軽減を図る	施設部門
	②職員福利厚生の実施を図るため、必要な環境整備を進める	職員満足度の向上と離職防止につなげるため、自動販売機の見直しや変則勤務職員への食支援等を検討し、働きやすい職場環境を整備する	施設部門
	③職員のストレス緩和を目的として、柔軟性のあるユニット配置を継続的に実施する	業務負担の平準化とストレス軽減を図るため、時間帯別の業務量を分析し、必要人員を最適に配置できるユニット編成を検討・実践する	施設部門
	④ストレス緩和に向け、専門医及び相談機関に関する情報提供並びに紹介体制を構築する	専門医および相談機関の情報を収集し、職員へ適切に情報提供できる体制を検討する	全部門
	⑤日払いバイトや短時間勤務を含む柔軟な職員体制を可能とする人員体制及び採用支援制度を構築する	日払いバイトや短時間勤務など多様な働き方に対応できるよう、業務を時間軸で整理する。必要な時間帯に柔軟に人員確保できる採用支援制度を検討・整備する	施設部門
2. 利用者の拡大	①頼れる身寄りがない高齢者の受け入れについて検討を行い、受入体制の整備を進める	頼れる身寄りがない高齢者の受け入れに伴う課題を整理し、契約・保証・医療連携等の体制を整備する	施設部門
	②医療ニーズの高い入居希望者の受け入れを推進する	ストマ利用者等の医療ニーズに対応できる体制を整備し、受け入れを積極的に進める。また、関係機関へ情報発信を行い入居申込者の増加を図る	施設部門
	③訪問介護における、完全調理済み食材の導入について検討する	調理支援を利用している対象者の状況を分析し、完全調理済み食材導入の可否を検討する	訪問部門
	④SNSの活用を検証し、施設及び在宅事業所における新たな情報発信手法の検討を進める	新規利用者確保と法人認知度向上を目的に、SNS活用の課題を整理し、施設および在宅事業所の情報発信方法を検討する	全部門

【 清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託） 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容	事業区分	
1.域包括ケアシステムの実現	①R8年度から区保健福祉課の体制変更に伴う、包括相談機能を強化する	区と役割分担を行い、業務連携会議等によるケース共有を進めるとともに、研修を通じた対応力向上と相談窓口の周知を図り、ワンストップサービスを継続する	包括機能
	②地域支援プランを継続的に推進する体制を構築する	地域および関係機関と協働し、地域課題の把握・共有を図りながら、地域支援プランのPDCAサイクルを実施する	包括機能
	③R8年度地域ケア会議の体制変更に伴い、効果的な活用と推進強化を図る	区と会議の目的および役割を明確化するとともに、自立支援型会議や地域課題解決型会議の開催に向け、協議する	包括機能
2.外部機関との連携	①医療系・障がい系機関との地域支援における共同と連携を強化する	定期的な情報交換会や研修への参加を通じて顔の見える関係づくりを継続し、連絡体制および窓口の整備を検討する	包括機能
	②関係機関と協働し地域アセスメントの推進強化を図る	地域資源情報の可視化により地域課題を明確化するとともに、ケア会議を通じて関係機関と必要な支援内容を分析する	包括機能・介護予防支援
	③包括的・継続的ケアマネジメントの推進により、各事業所と地域支援にかかる課題などの共通認識を深める	合同研修や個別ケア会議等を通じて課題の発掘・整理を行い、把握した地域課題について必要な支援の共通認識を図る	包括機能・介護予防支援
	④同区や他区市町村の医療機関と清田区内の関係機関の連携を図る	定期的な研修開催と参加により、ケース支援を通じ対面による情報交換を行い、関係強化を図る	包括機能・介護予防支援
3.地域組織との連携	①地区組織と共にチームオレンジ活動を通じて、家族介護者に対する認知症支援を行う	地区組織の活躍の場を創出するとともに、定期的な開催場所を確保し、当事者が楽しめる活動の実施を目指す	地域支援
	②フレイル改善マネジャーの活動を継続し、地域に向けて介護予防の大切さをアプローチする	介護予防が認知症予防につながることの普及啓発を行うとともに、認定更新の必要性について情報提供を行い、本人の状況に応じサービスの選択を支援する	地域支援
	③認知症や多問題状況の課題解決に向け、個別地域ケア会議や地区・地域ケア会議の活用および地域組織との連携を強化する	個別および地区地域ケア会議に地域組織の参加を得て、地域の実情や課題を共有し、相互に連携し支え合う地域づくりを検討する	地域支援

[地域包括支援（組織運営）]

重点項目	計画内容		事業区分
1.再委託件数の確保	①再委託件数を管理し、職員が地域活動や専門職活動に取り組める環境づくりを行う	現状の再委託件数の維持に向けて推移を把握するとともに、オレンジおよびフレイルの活動状況に応じ、再委託件数の増加を検討する	包括機能・介護予防支援
	②再委託を通じ居宅介護支援事業所と共に予防給付の在り方を学ぶことで互いの質の向上を図る	総合事業の様式および取扱いの変更に伴い、関係機関への周知機会を確保し、取扱いの統一を図ることで質の向上を推進する	包括機能・介護予防支援
	③法人内の居宅介護支援事業所との日常的な相談を通じ、学びを共有することで再委託の受け入れを含めた連携強化を図る	法人内居宅介護支援事業所との相談・事例共有の機会を設け、個別および地区地域ケア会議への参加を促進することで、学びの共有と再委託受け入れ体制の強化を図る	包括機能・介護予防支援
2.職場環境の効率化	①ICT 機器の導入に向け、安全性および費用対効果を協議した上で導入・活用し、業務効率化を図る	さらなる ICT 化による業務効率を推進するため、業務課題を整理し改善方法を検討する	法人内連携
	②ICT 機器等を活用し、超過勤務コストの削減を行う	業務効率化を推進するため、ICT を効果的に活用し、記録業務時間の削減を図る	包括機能・介護予防支援
	③働きやすい環境づくりに向け、早出・遅出勤務を活用し、業務の実情に合わせた労務管理を行う	早出・遅出勤務の活用を促進し、長時間勤務の抑制を図るため、リーダー間で要因分析および対策、評価方法（アウトプット評価）を明確化する	包括機能・法人内連携
	④新人職員の定期面談および伝達済内容を可視化し、個人スキル向上プログラムの推進を図る	多様かつ高度な専門性の向上を目指し、経験や専門性の段階に応じた指導・育成を実行できるプログラムを確立する	包括機能

VI KPI

KPI【重要業績評価指標】

【Key Performance Indicator】

【拠点区分：法人全体】

A 財務目標値		項 目	令和 8 年度
	1	事業活動収入	1,850,000,000
2	資金収差額	57,000,000	
3	利益率(資金収支差率)/%	3.1%	
4	大型投資額	35,000,000	

C 人事・労務管理目標値		項 目	令和 8 年度
	1	離職率(全体) (うち介護職員)	
			19%
2	新入職員の1年以内定着率	70%	
3	民間人材紹介会社経由採用率	25%	
4	正職員残業時間数/月・平均	7時間 00分	
5	新卒介護職採用数	2人	

【拠点区分：桜テラス平岡】

D 利用者確保目標値		項 目	令和 8 年度
	1	事業所間連携件数/年	100件
2	居宅初回加算件数/月平均	10件	
3	通所1人あたり利用回数/月平均	7.2回	

E 業務管理目標値		項 目	令和 8 年度
	1	介護職員職場滞留時間/月平均	190時間
2	車両事故発生件数/年	10件	

F 利用者サービス目標値		項 目	令和 8 年度
	1	特養入居者看取り件数/年	10件
2	事故発生件数(特養+通所)	合計 180件	
3	グループ毎入浴累計回数/月	210回	

※「B 事業目標値」は、【Ⅱ各施設事業計画値】としてP10・11ページに記載。

【拠点区分：青葉のまち】

D 利用者確保目標値		項 目	令和 8 年度
	1	新規相談件数（特養）/月	10 件
	2	入居待機者数（特養）/月	40 人
	3	体験デイ利用者数（通所）/月	7 人
	4	居宅新規給付件数(居宅・予防)/月	5 件

E 業務管理目標値		項 目	令和 8 年度
	1	職員外部研修派遣数/年	10 人
	2	ペーパーレス化実施数/年	7 項目
	3	3M による業務改善実施件数/年	6 件

F 利用者サービス目標値		項 目	令和 8 年度
	1	ボランティア活動参加延人数/月	25 人
	2	インスタグラムアップ数/年	72 回
	3	地域公益的取組実施企画数/年	8 回

【拠点区分：サポータィ・もみじ台】

D 利用者確保目標値		項 目	令和 8 年度
	1	入院空床ベッド日数(特養)/月	108.3 日
	2	居宅新規相談件数/年	93 件

E 業務管理目標値		項 目	令和 8 年度
	1	施設介護正職員超過勤務時間数/月	8.9 時間
	2	訪問介護正職員超過勤務時間数/月	3.3 時間
	3	居宅正職員超過勤務時間数/月	3.7 時間

※超過勤務時間数は一人あたりの平均とする

F 利用者サービス目標値		項 目	令和 8 年度
	1	家族来館者数/月	500 人
	2	地域公益取組実施回数/年	25 回

【拠点区分：清田区第1・第2地域包括支援センター】

D 利用者確保目標値	項 目		令和8年度
	1	地域住民・関係機関などへの情報提供活動回数/年	300回

E 業務管理目標値	項 目		令和8年度
	1	包括・予防給付再委託率/年	20.5%
	2	記録業務の削減時間数(担当者会議録)/年	106時間
3	記録業務の削減時間数(事業所報告入力)/月	24時間	

F 利用者サービス目標値	項 目		令和8年度
	1	地域包括支援ネットワーク構築に向けた連携等/年	250回
2	認知症に関する相談件数/年	220件	